

令和5年4月1日より

胃がん検診の対象者が一部変更になっています。

対象年齢 年度年齢が50歳以上・偶数の人

検診間隔 2年度に1回

検診項目 (どちらかひとつ受診可能)	令和4年度まで	令和5年度から
胃部エックス線検査	40歳以上、1年度に1回	50歳以上、2年度に1回 (原則※、偶数年齢者)
胃内視鏡検査	50歳以上、2年度に1回 (偶数年齢者)	

※令和5年度のみ、奇数年齢の人でも胃部エックス線検査は受診可能としていました（経過措置）

《対象者変更の経緯》

大津市では科学的根拠に基づいた、国が推奨する胃がん検診を実施しています。

国が推奨するがん検診については、「がん検診のあり方に関する検討会」においてその有効性等を検討されていますが、その中で胃がん検診の利益・不利益[※]を検討された結果、40歳代における胃がん罹患率・死亡率が減少したことなどから、平成28年2月に国の「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が改正され、胃がん検診の対象者は「50歳以上の者であり、原則同一人について2年に1回」とされました。

このことを受け、本市では大津市胃がん検診協議会で協議を重ねた結果、令和5年度から国の指針のとおり対象者を変更することにいたしました。

※不利益とは、バリウムの誤嚥、放射線被曝、偽陽性（検診でがんの疑いと判定されて精密検査を行っても、がんが発見されないこと）、過剰診断（生命を脅かさないがんを発見すること）などを指します。

参考「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014年度版」

50歳以上になったのはなぜ？

国が実施する「がん検診のあり方に関する検討会中間報告」で下記の根拠が示されています。

1. 40歳代以下は、胃がんの罹患率、死亡率は減少傾向にある

胃がん検診が導入された昭和58年（1983年）当時に比べ、平成23年（2011年）のデータでは40歳代の胃がん罹患率は約1/2、平成25年（2013年）のデータでは胃がん死亡率は約1/5に減少している。

2. 胃がんのリスク要因であるヘリコバクター・ピロリ菌の感染率は各年代において減少傾向である

40歳代の感染率は、1990年代は約60%であったが、2010年は20%程度になっている。

検診はどうなるの？

年度年齢 50 歳以上の方は、医療機関で実施する胃内視鏡検査による胃がん検診と、地域で実施している検診車による胃部エックス線検査による胃がん検診のどちらかを選択して検診を受けることができます（2 年度に 1 回）。医療機関でスムーズに胃内視鏡検査を受診してもらいやすいよう、対象者を偶数年齢に統一して実施します。

◆各検査におけるメリット・デメリットについて（参考：一般社団法人日本消化器内視鏡学会 HP）

	胃部エックス線検査	胃内視鏡検査
検査方法	飲んだバリウムを胃の中に薄く広げて、胃の形や表面の凹凸をレントゲンで観察する	先端についた小型カメラで胃の中を直接観察する
メリット	<ul style="list-style-type: none">・胃全体の変形をとらえやすい・バスによる巡回検診も可能より多くの受診者を検査することができる（検査時間が短い、検査の担い手が多い）	<ul style="list-style-type: none">・凹凸のない平坦な病変も、色の変化で発見できるため早期のがんを診断できる・食道についても胃と同様に観察できる・検診実施医療機関が消化器科かかりつけ医の場合、受診しやすい
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・少量ではあるものの放射線被ばくがある・稀にバリウムの誤嚥による肺炎や、バリウムがなかなか排便されない場合に腸閉塞が起こることがある	<ul style="list-style-type: none">・喉の痛みや違和感など検査に伴う苦痛が大きい・稀に喉の麻酔薬によるショックや生検（組織採取）による出血、内視鏡による粘膜の損傷や出血、穿孔があり、鼻からの内視鏡では鼻出血がみられることがある
適さない人	<ul style="list-style-type: none">・バリウムのアレルギーを持つ・極度の便秘（1 週間程）または、過去にバリウムによる腸閉塞があった・嚥下困難がある、過去にバリウムの誤嚥があった・消化管の閉塞、強い狭窄があると診断されたことがある・水分制限が必要・自分で体の向きを変えられない、立位がとれない、階段を昇れない・妊娠中または妊娠の可能性がある	<ul style="list-style-type: none">・咽頭、鼻腔などの疾患により、内視鏡の挿入ができない・呼吸不全がある・急性心筋梗塞や重篤な不整脈などの心疾患がある・明らかな出血傾向またはその疑いがある・収縮期血圧が極めて高い・全身状態が悪く、胃内視鏡検査に耐えられないと判断される・妊娠中または妊娠の可能性がある

40 歳代で胃がん検診を受診したい

ご自身の健康管理のためのがん検診については、任意検診として医療機関等で受診いただきますよう、願います。